

温州萎縮ウイルス（SDV）の簡易迅速検定キット

温州萎縮ウイルス（SDV）は、カンキツの樹勢と果実の収量・品質を低下させる重要ウイルスであり、土壌伝染します（図 1）。被害回避には無毒苗の利用が肝要ですが、エライザ法や遺伝子増幅法による検定は、検査機関でのみ実施可能でした。そこで、簡便で苗木業者や果樹農家が自ら圃場で本ウイルスを検出することができる簡易迅速検定キットを紹介します。

☆ 技術の概要

1. キットに付属する磨砕用の簡易容器（図 2）は柔らかいチューブで、内側に溝が切つてあるので、容器を指で挟み込むことにより、圃場で葉は簡単に磨砕されます。
2. 本キットの検定プレートは、SDV に特異的に反応するモノクローナル抗体を使用しており、イムノクロマト法で、SDV に感染した葉の汁液と反応して、ラインを生じます。
3. 本キットを用いた検定では、磨砕液を検定プレートに滴下後（図 3）、15 分以内に確認ラインと判定ラインの 2 本の線が出現した場合、陽性と判断します（図 4）。



図 1 温州萎縮ウイルスが感染したウンシュウミカン



図 2 簡易容器による葉の磨砕



図 3 検定プレートへの滴下

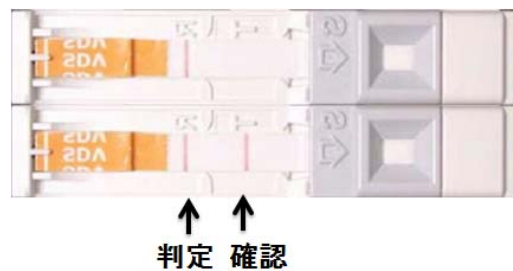


図 4 判定ラインの出現（下）は陽性

☆ 活用面での留意点

1. 本キットで SDV を検出するためには、春枝の新芽、新梢先端、あるいは展葉直後の新葉を用います。果皮のフラベト部分（緑～黄色の外果皮）を用いると夏～秋でも検出可能です。
2. 本キットでは、カンキツモザイクウイルスなど SDV の系統も検出できますが、母樹などの重要な材料の検定は、検査指導機関と相談することが望ましいです。
3. 詳細については、果樹研究所 企画管理部（電話：029-838-6451，電子メール tiwsw37@affrc.go.jp）にお問い合わせください。

（果樹研究所 企画管理部 研究調整役 岩波 徹）